

ことり新聞

看護部だより3月号



北之園看護部長

今回は、2011年から講師にユニ・チャームの協力のもと看護補助者を対象に開始している「おむつフitter（排泄ケア）」教育についてご紹介します。2016年から看護師も研修に参加し、研修修了者は2011年から現在まで看護補助者約120名・看護師約40名と毎年10名以上の方が、自主的に受講されています。



3月2日に補助者検討会企画で第12期生・第13期生の「おむつフitter発表会」が開催され、7部署の方が排泄ケア改善を目的に成果を数値化された発表でした。一部をご紹介しますと、「排尿の外漏れが25回から8回へ減少」また「尿漏れ汚染のシーツ交換が15回から5回へ減少」と明らかに改善されていました。患者さんにとっては、汚染による苦痛緩和に直結する重要なケアです。教育の継続は、必ずケアの質向上に繋がることの証明ですね。



「継続は力なり」私の好きな言葉です。

3月研修

- 2日 オムツフitter実践報告会
- 4日 法人新人振り返り研修
- 7日 長期研修伝達講習会
- 8日 法人新人介護職研修
- 9日 法人プリセプター研修
- 10日 法人在宅看護論
- 15日 看護研究院内発表会



3月行事

- 2/24～7日 梅花女子大学実習
- 1日 コロナワクチン接種
- 8～17日 新入職者健診
- 22～24日 入職前研修



22年度緩和ケア病棟の取り組み—在宅と緩和ケア病棟の連携—

西6階 看護師長

世の中は「ときどき入院ほぼ在宅」と2025年問題から2040年問題へと意識を向けた地域完結型の医療が必要な時代です。

看護サービスの提供は「医療・介護の連携強化」「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進によるケアの質確保」「看取り場所の確保」が必要となりました。



人口約39万人の豊中市の緩和ケア病棟は、当院の25床のみと少ない状態です。コロナ禍に突入し、在宅復帰率は19.1%(2021)と看取りだけでなく退院支援の対象が増えています。住み慣れた家でご家族と過ごしたい方へのケアの質の確保のために不可欠なのが、医療・介護の連携、顔の見える関係性です。今年は近隣の急性期病院2施設との連携カンファレンスの実施や、顔の見える関係構築の研修である千里在宅医療・緩和を考える会で「コロナ禍における緩和ケア病棟の取り組みと課題」を報告しました。参加者の半数以上は在宅医療者で、緩和ケア病棟の現状の理解に繋がったと思います。



当院の慢性期医療においても退院支援は大きな課題であり、ACPの推進が各部署で行われています。病院全体で、在宅との連携を強化し、ACPの推進によるケアの質確保と看取りの療養の場として、選ばれる千里中央病院を目指していきましょう。

今年からの看護部定期購読図書のご案内

- ・看護
- ・エキスパートナース
- ・ナーシングビジネス（今年より購読）
- ・主任Style
- ・緩和ケア
- ・リハビリナース

図書室入って右の書棚に最新号はあります



お知らせ

東5階病棟のACP事例が大阪府看護協会ホームページで取り上げられました。是非、ご覧ください！（大阪府看護協会ホームページトップ画面 WHAT'S NEW 【新規事例のご紹介】）○ACPある時広場へようこそ！よりご覧いただけます

